

# 講義科目4-2

## 臨床病理学モデル・コア・カリキュラム

### 全体目標

動物の生体試料を用いて様々な検査を実施し、それらの検査で得られた情報を解釈して、疾患について適切な診断、治療、予後判定を行う能力を身につける。そのために、臨床診断に用いる様々な臨床検査の原理、方法ならびに意義を理解する。さらに、検査結果を総合的に解釈し、診断法、治療法、予後判定に結びつける方法を修得する。

### (1) 検体の採取と処理ならびに検査値の解釈

#### 一般目標：

生体試料・検体の採取法、検査法ならびに検査結果の解釈法を修得する。

#### 到達目標：

- 1) 臨床検査に用いる機器・器具の名称、用途、検体の採取法を説明し、検査結果を解釈できる。

### (2) 血液の検査

#### 一般目標：

赤血球系・造血機能の異常、白血球の数と質の異常、止血異常ならびに血漿・血清タンパク質の変化をもたらす疾患と、それらを診断するための検査法の目的と適応を理解し、検査結果の解釈法を修得する。

#### 到達目標：

- 1) 赤血球系検査の目的、適応ならびに異常所見（貧血または多血症）とその成因を説明できる。
- 2) 白血球数や白血球分類の異常から、感染症、炎症、白血病などを診断し、その成因を説明できる。
- 3) 血小板や血液凝固系・線溶系の異常から出血性疾患や血栓性疾患を診断し、その成因を説明できる。
- 4) 血漿・血清タンパク質の検査法の目的、適応を説明し、その異常から疾病の病態と成因を説明できる。

### (3) 免疫学的検査

#### 一般目標：

免疫介在性疾患とその検査法を理解し、検査結果の解釈法を修得する。

#### 到達目標：

- 1) 免疫学的検査の目的、適応と異常所見を説明し、検査結果を解釈できる。

### (4) 電解質・酸塩基平衡、血液ガスの検査

#### 一般目標：

電解質・酸塩基平衡、血液ガスの異常と、これらを評価する検査の目的と意義を理解し、検査結果の解釈法を修得する。

#### 到達目標：

- 1) 電解質・酸塩基平衡と血液ガスの異常所見を説明し、検査結果と成因を解釈できる。

### (5) 尿・腎・泌尿器系の検査

#### 一般目標：

尿・腎・泌尿器検査法の目的と意義を理解し、検査結果の解釈法を修得する。

#### 到達目標：

- 1) 尿検査の目的、適応と異常所見を説明し、病態を評価できる。
- 2) 腎機能異常と尿路系疾患の検査法の目的、適応と異常所見を説明し、検査結果を解釈できる。

## (6) 消化管、膵臓、肝・胆道系の検査

### 一般目標：

消化管および膵臓の外分泌機能、肝・胆道系の検査法の目的と意義を理解し、検査結果の解釈法を修得する。

### 到達目標：

- 1) 消化管および膵臓の外分泌機能検査法の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
- 2) 肝・胆道系疾患の検査法の目的、適応と異常所見を説明し、検査結果を解釈できる。

## (7) 内分泌疾患・代謝病の検査

### 一般目標：

内分泌疾患、代謝性疾患の検査法について目的と意義を理解し、検査結果の解釈法を修得する。

### 到達目標：

- 1) 内分泌疾患と代謝性疾患の検査法の目的、適応と異常所見を説明し、検査結果を解釈できる。

## (8) 運動器・骨疾患の検査

### 一般目標：

筋肉と骨の疾患の検査法について、目的と意義を理解し、検査結果の解釈法を修得する。

### 到達目標：

- 1) 筋肉と骨の疾患の検査法について、目的、適応と異常所見を説明し、検査結果を解釈できる。

## (9) 体液・貯留液、皮膚等試料の検査

### 一般目標：

体液・貯留液ならびに皮膚や耳の検査法の目的と意義を理解し、検査結果の解釈法を修得する。

### 到達目標：

- 1) 体液・貯留液成分、皮膚や耳の検査法の目的、適応と異常所見を説明し、検査結果を解釈できる。

## (10) 細胞診

### 一般目標：

細胞診の目的と意義を理解し、検査結果の解釈法を修得する。

### 到達目標：

- 1) 細胞診の目的と意義、その適用を理解し、炎症、腫瘍など細胞・組織の異常とその成因を説明できる。